

令和3年度事業報告書

社会福祉法人湘南の風

目 次

はじめに・基本理念	1
経営の原則・法人の方針	2
法人主要課題	3
利用実績	4
部門別	
法人本部／総務課	5～11
もやい	12～15
mai!えるしい	16～17
えいむ	18～19
葉山はばたき	20～22
支援センター風	23～28
グループホームジャストサイズ	29～31
委員会・研究会	32～33

はじめに

令和3年度を終えて

令和3年度も前年度に引き続き各事業において具体的な取組を進めてまいりました。また、より質の高い利用者支援とより健全な法人運営を継続していくために主要事業として5つの項目を挙げさせていただきました。

このうち「mai!えるしい工賃向上計画の実現」につきましては、製菓の売上げ復調とともに施設外就労や工房を使った受託加工による収入が大幅に増え、また、6月にオープンした「青い鳥」による販売手数料収入などもあり目標としていた平均工賃1万円を大きく超えることができました。引き続き製菓の販路拡大や受託事業や施設外就労等による継続的な工賃向上に努めてまいります。

次に「葉山はばたき指定管理事業」につきましては、今年1月、新たな施設となる「新葉山はばたき」の建物の改修工事に着手いたしました。6月末までに残りの工事を完了する予定となっておりますが、移転に当たっては利用者への影響が極力ないよう配慮して進めてまいります。

また、「ジャストサイズの虐待防止と安定的運営に向けた取組み」につきましては、昨年度の改善計画を踏襲し、虐待防止のための改善の取組みを継続して実施いたしました。引き続き、人員確保を含め安定的運営に向けた取組みを着実に実施してまいります。

コロナの収束がいつになるのか未だ不透明ですが、利用者の命と暮らしを支える我々福祉の仕事の意義が改めて認知されています。

今後も基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を継続することで利用者の生活を守りつつ、地域に必要とされる社会福祉事業を一つずつ丁寧に行ってまいります。

令和4年5月

理事長 和田 一幸

社会福祉法人湘南の風 基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

経営の原則

当法人は、令和3年度事業を執行するに際し、法人定款第3条に規定する法人経営の原則を遵守します。

【定款】

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

法人の方針

1. 福祉サービスの質の向上

- ① いわゆるサービス利用困難者に対するサービス提供の実現を目指します。
- ② 個別支援計画の充実とサービス提供管理体制を構築します。
- ③ 障害者権利条約を守り、権利ある主体である個人の尊厳を重視した支援を行います。
- ④ 良質なサービス提供により利用者・家族・関係機関・地域社会との信頼関係を築きます。
- ⑤ 第三者委員によるサービスレベルの客観的な評価を受け、サービスの向上に努めます。
- ⑥ 人材育成と職員のモチベーションの向上のため、研修の充実を図ります。

2. 経営の透明性

- ① 法令遵守と権利擁護の推進により、地域社会の信頼を得るべく努めます。
- ② 第三者評価を積極的に受審し、運営事業の客観的な評価を受けます。
- ③ 事業運営の適正化を図るため、内部監査の充実を図ります。
- ④ ホームページや広報誌等により、事業内容や計算関係書類等の法人情報を公開します。

3. 経営基盤の強化と財政の健全化

- ① 中期事業計画に基づき、効率的な事業遂行と予算執行を行います。
- ② 法人の意思決定を行う中枢機関として本部機能を強化します。
- ③ 防災・減災体制を整備し、危機管理体制を強化します。
- ④ 各事業所における会計管理、予算執行管理を推進します。
- ⑤ 請求業務のチェック体制を強化し、正確で効率的な請求を行います。
- ⑥ 人材確保のため、年間を通じた職員採用計画を再構築します。

法人主要課題

1. mai!えるしい工賃向上計画の実現

① 事業概要

受託加工収入や施設外就労収入の向上等により、継続的な工賃向上の実現を図る。

② 令和3年度の取組み

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により就労支援収入が大きく落ち込みましたが、施設外就労の機会確保や受託製造メニューの拡大、市役所売店「青い鳥」の運営開始などで利用者の平均工賃は13,000円台（昨年比156%）と大きく持ち直しました。

2. 葉山はばたき指定管理事業

① 事業概要

指定管理者として安定的な支援を行うとともに、施設の移転に向けた建物の改修、設備の更新等を実施する。

② 令和3年度の取組み

老朽化した現在の施設からの移転に向け、用地・建物の取得を行い、地域住民向け説明会を開催後、移転先の建物、設備の改修等に着手しました。

3. ジャストサイズの虐待防止と安定的運営に向けた取組み

① 事業概要

虐待防止のための改善の取組みを継続するとともに、安定的運営に向けた取組みを着実に実施する。

② 令和3年度の取組み

令和2年度に作成した虐待防止改善計画について継続して取り組み、各種会議の運営、職員雇用サイクルの確立、個別面談等を実施しました。安定的運営については継続的な職員募集を実施し、宿泊勤務者2名、日勤3名（1名早番兼）、早番2名（1名日勤兼）の採用に繋がりました。

4. 利用者の高齢化に伴い出現する諸課題への対応

① 事業概要

利用者の高齢化に伴い出現する様々な課題への対応について、研究・検討を進めていく。

② 令和3年度の取組み

施設長会、運営会議等の際に利用者の高齢化に伴う諸問題に対する検討を行いました。

引き続き職員の自主的な研究会である「高齢化支援研究会」においても、中年期以降の知的障がい者への支援の在り方と支援の研究を行います。

5. 第三者評価受審事業

① 事業概要

実施事業のサービスの質の向上を図るため、今年度はもやいとジャストサイズが受審する。

② 令和3年度の取組み

もやいとジャストサイズについて（公財）神奈川県介護福祉士会による福祉サービス第三者評価を受審し、法人及び同会のホームページに評価結果を公表しました。

利用実績

事業所名	定員	契約者数	年間稼働日数	延利用者数	稼働率	事業計画比較	
						延利用者数	達成率
もやい	40名	53名	248日	9,857名	99.4%	11,300名	87.2%
もやいデイサービス	20名	32名	248日	2,506名	50.5%	2,780名	90.1%
日中一時支援	5名	13名	248日	897名	72.3%	858名	104.5%
ヘルパー派遣 移動支援 行動援護		39名 8名	365日	500 114			
mai!えるしい	20名	19名	238日	3,683名	77.3%	4,216名	87.3%
えいむ	40名	48名	248日	9,155名	92.3%	9,766名	93.7%
葉山はばたき	20名	23名	248日	5,261名	104.3%	5,189名	101.4%
特定相談 支援センター風 障害児相談 介護保険		292名 113名 43名	251日				
地域活動支援センター	10名	19名	240日	959名	40.0%	1,240名	77.3%
ジャストサイズ	43名	43名	365日	13,215名	84.1%	13,340名	98.6%
ジャストサイズ (小坪・堀内)	4名	41名	365日	388名	26.6%	1,000名	38.8%

部 門 別

法人本部／総務課

1. 法令遵守

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正を受け、育児・介護休業等に関する規則の改正を行う等、常に法令遵守を念頭に業務を行いました。

2. 中期事業計画

今年度が最終年度となった本計画の進捗管理を行いました。また、令和4年度～令和8年度までの新たな中期事業計画の策定に着手しました。各事業所の支援事業、施設・設備整備事業に関して計画年度の変更が様々な要因により必要となる場合には、理事会・評議員会において計画の修正を諮ります。

3. 連絡調整

法人内外の連絡、情報の収集・分析・発信及び理事会・評議員会、運営会議等諸会議の運営、第三者委員の事務局機能を担いました。

<理事会開催実績>

第1回理事会

開催日	令和3年5月28日（金）	出席者	理事6名 監事2名
議 題	「グループホームジャストサイズ」虐待防止改善計画の点検・評価について		（了承）
議案第1号	令和2年度事業報告及び決算について		（可決）
議案第2号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		（可決）
議案第3号	「もやい」生活介護事業運営規則等の一部改正について		（可決）
議案第4号	評議員候補者の選任について		（承認）
議案第5号	理事候補者の選任について		（可決）
議案第6号	監事候補者の選任について		（可決）
議案第7号	令和3年度定時評議員会の招集について		（可決）
議案第8号	評議員選任・解任委員会の招集について		（可決）
報告事項	「mai！えるしい」の逗子市役所1階での販売活動について／理事長の職務執行状況の報告について／予備費の使用について		

第2回理事会

開催日	令和3年6月25日（金）	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	理事長の選定について		（可決）
議案第2号	評議員選任・解任委員会委員の選定について		（可決）

第3回理事会

開催日	令和3年9月22日(水)	出席者	理事6名 監事1名
議案第1号	新規障害福祉サービスについて		(可決)
議案第2号	運営規程の制定について		(可決)
議案第3号	「もやい」生活介護事業運営規則等の一部改正について		(可決)
議案第4号	評議員候補者の選定について		(可決)
議案第5号	評議員選任・解任委員会の招集について		(可決)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告について/予備費の使用について		

第4回理事会

開催日	令和3年11月8日(月)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	(仮称)新葉山はばたき改修工事に係る契約方法等について		(可決)
議案第2号	令和3年度第1回補正予算(案)について		(同意)
議案第3号	令和3年度第1回臨時評議員会の招集について		(可決)

第5回理事会

開催日	令和3年12月6日(月)	出席者	理事5名 監事2名
議案第1号	(仮称)新葉山はばたき改修工事に係る契約の締結について		(可決)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告について		

第6回理事会

開催日	令和4年2月24日(木)	出席者	理事4名 監事2名
議案第1号	令和4年度給食業務委託契約について		(可決)
議案第2号	令和4年度役員等のために締結される保険契約の内容について		(可決)
議案第3号	役員報酬規程の一部改正(案)の提案について		(同意)
議案第4号	給与規程の一部改正について		(可決)
議案第5号	虐待防止対応規程の一部改正について		(可決)
議案第6号	施設長の選任について		(可決)

第7回理事会

開催日	令和4年3月10日(木)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	育児・介護休業等に関する規則の全部改正について		(可決)
議案第2号	令和4年度事業計画(案)について		(同意)
議案第3号	令和4年度収支予算(案)について		(同意)
議案第4号	令和3年度第2回臨時評議員会の招集について		(可決)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告について/予備費の使用について/令和4年度人事について		

<評議員会開催実績>

定時評議員会

開催日	令和3年6月25日(金)	出席者	評議員7名
報告	令和2年度事業報告について		
議案第1号	令和2年度計算書類及び財産目録の承認について		(可決)
議案第2号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		(可決)
議案第3号	理事の選任について		(可決)
議案第4号	監事の選任について		(可決)
報告事項	逗子市地域生活拠点等事業への登録について/予備費の使用について		

第1回臨時評議員会

開催日	令和3年11月24日(水)	出席者	評議員10名
議案第1号	令和3年度第1回補正予算(案)について		(可決)

第2回臨時評議員会

開催日	令和4年3月25日(金)	出席者	評議員10名
議案第1号	役員報酬規程の一部改正について		(可決)
議案第2号	令和4年度事業計画(案)について		(可決)
議案第3号	令和4年度収支予算(案)について		(可決)
報告事項	令和4年度人事について		

<第三者委員施設訪問実績>

*新型コロナウイルス感染防止対策のため実施を中止しました。

4. 人事

① 採用

正職員については、中途採用者4名となりました。有期契約職員の採用については募集チラシの作成及び逗子・葉山地域へのポスティング、求人情報誌への掲載及びインターネットによる採用情報の掲載を行い、法人全体で20名を採用しました。

②研修

集合研修

研修名	実施日	講師又は依頼先	内容	対象者	参加者
新採用職員研修	4/1、2 6/14、15 1/4、5	法人管理者	法人の理解、障がいの理解等について	新入職員	4名
制度理解促進研修	6/3	又村あおい氏 全国手をつなぐ育成連合会	令和3年度制度改正、報酬内容について	管理者、主査、サビ管、 業務リーダー	16名
安全運転講習会	11/25	株式会社トヨタレンタ リース神奈川	交通安全に対する意思向上（オンラインによる実施）	運転業務従事職員、 運転員	77名
感染症対策研修	12月	動画視聴による所内研修	新型コロナウイルス感染症に対する具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	—
メンタルヘルス研修	1月	動画視聴による所内研修	メンタルヘルスケアの必要性を理解し、ストレスへの具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	—
コンプライアンス研修	通年	教材を用いた所内研修	社会福祉施設で起きる具体的事例を用いたN G行動への気づきとグループワーク	法人職員全員	—
階層別研修①	5/18、6/15、 8/17、9/28、3/25	法人管理者	支援の基礎となる基本的な知識の習得を行った	1～3年目職員	10名
階層別研修②	9/21、10/25	法人管理者	各事業所の事例を通して具体的な支援知識を深めた	4～9年目職員	10名
階層別研修③	5/26、9/1、1/19	法人管理者	事業所の目的を達成させるために、チームで課題解決に取り組める人材を育成する	10年目以上、主査、 サビ管、業務リーダー	20名
中間事業報告会	10/15	各事業所職員	令和3年度上半期の事業報告（オンラインによる実施）	法人常勤職員	41名

* 新型コロナウイルス感染症対策等のため、一部の集合研修（介護技術研修、接遇研修）は中止しましたが、オンラインでの開催が可能な研修はZoomによる実施をするとともに、各事業所においては、オンライン研修サービスを活用した研修も行いました。

派遣研修

研修名	実施日	主催	内容	対象者	参加者
サービス管理責任者 更新研修	年 18 開催 (1 日の研修)	かながわ障がいケアマ ネジメント従事者ネッ トワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る。	サービス管理責任者	7 名
サービス管理責任者 基礎研修	E ラーニング 6/28 他 2 日間	シーガル研修・研究機 構	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る。	実務経験年数充足者	4 名
サービス管理責任者 補足研修	E ラーニング 4/12～30 のうち 2 日間	かながわ障がいケアマ ネジメント従事者ネッ トワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る。	実務経験年数充足者	3 名
相談支援従事者初任者 研修	7/1～11/12	かながわ障がいケアマ ネジメント従事者ネッ トワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の技術を習得し、相談支援業務に携われる人材を育成する。	相談支援補助従事者	1 名
相談支援従事者現任者 研修	10 月 (動画視聴) 11/22 他	神奈川県	相談支援に従事する者が、障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る。	相談支援従事者	2 名
全国社会福祉法人経営 協議会「社会福祉法人 経営塾」	10/7、8、 12/7、8 (オンライン開催)	全国社会福祉法人経営 者協議会	経営幹部として求められる視点や役割、知識について学び、自立的な経営を行うことができる経営幹部となることを目指す。	管理者	1 名
全国社会福祉法人経営 協議会「社会福祉法人 マネジメント講座」	10～11 月 (動画視聴)、 11/25 (オンライン開催)	全国社会福祉法人経営 者協議会	ミドルマネジャーの現場での役割、職場課題の解決や活力ある職場の創造に向けて求められる実践能力の向上を目指す。	管理者	2 名

強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	1/18、19 （オンライン開催）	神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援を行う職員の人材育成を目的にする。	強行支援者	1名
強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	2/3、4 （オンライン開催）	神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援計画を作成することが可能な職員の人材育成を目的にする。	強行基礎研修修了者	1名
社会福祉士実習指導者講習会	2/5、26	学校法人湘南ふれあい学園	相談援助実習指導者の養成を図る。	社会福祉士	3名
経営分析支援事業研修	12/9	社会福祉法人神奈川県 社会福祉協議会	経営分析を通し、経営課題を抽出し改善の方向性を学ぶ。	担当者	1名
人事労務管理セミナー	2/28	公益財団法人公益法人協会	採用時の人事管理のポイント、自己都合退職と合意退職等労働トラブルリスク予防回避等について学ぶ。	管理者	1名
健康保険委員研修会	10～11月 （動画視聴）	全国健康協会神奈川県支部	健康保険事業習得のため	担当者	1名

視察研修

研修名	実施日	視察先	目的	対象者	参加者
自主県外視察研修	中止	—	—	—	—

③ 職員育成

職員については、年度当初に自己申告書を作成し、職員育成指針に基づく目標設定等を行いました。下半期には目標の振り返り、自己評価、管理者の評価・面談を行いました。有期契約職員については、新年度に向けた契約更新の意思確認も含め、年末から年始にかけて意向調査を実施しました。

④ 給与

給与、賞与、退職金等の計算、社会保険加入手続き等を行いました。

⑤ その他

国家資格取得に係る受験費用を法人から支給する制度を令和元年度から設けました。国家資格取得者への報奨金支給は、3名でした。

⑥ 福利厚生

例年職員厚生団体への支援・補助を行っておりますが、今年度につきましても引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、事業実施を見送ったため補助金の交付は行いませんでした。

5. 広報

法人会報を年4回発行しました。情報開示については、法人ホームページでの定款、財務諸表の公開をはじめ、全国社会福祉法人経営者協議会等の関連団体の専用サイトなどを活用し、経営の透明性を担保する情報開示に努めました。

6. 防災

緊急連絡網を年度当初及び入退職の度に更新し、有事を想定した緊急連絡テストを実施しました。

7. 収入

新型コロナウイルスの影響のため、臨時休業や利用自粛により前年度に引き続き各事業所の稼働率が例年よりも低くなりました。障害福祉サービス等の事業収入は、前年度も新型コロナウイルスの影響がありましたので正確な比較は難しいですが、新規利用による利用者数の増加や新規加算の取得もあり、前年度と比較して約1,000万円の増収となりました。

8. 運営管理出納事務

毎月行われる運営会議にて各施設の稼働率・資金収支の推移を確認し、問題点の早期発見及び問題解決の話し合いを随時行いました。

9. 委託業務出納事務

計画のとおり執行しました。

10. 施設整備出納事務

前年度に購入した葉山町堀内の新葉山はばたき施設改修工事(1億6,500万円)に着手致しました。また、えいむにおいて屋上防水工事(約340万円)、ジャストサイズにおいてジャストサイズ小坪駐車場舗装工事(約190万円)、ジャストサイズ堀内避難路確保外構工事(約150万円)、通院用車両の購入(約310万円)、支援センター風において事務室拡張改修工事(約75万円)、その他各事業所において経年劣化による修繕や細かい整備を行いました。

もやい（生活介護／日中一時支援/行動援護・移動支援）

1. 支援事業

(1) もやい

- ① 男女人数 男性 29 名 女性 24 名
- ② 年齢構成 19 歳～60 歳（平均年齢 39.8 歳）

③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	3	14	9	27	53

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	26	重複障がい（知的、身体）	25
身体障がい	1	重複障がい（身体、精神）	1
		合計	53

⑤ 入退所の状況

- 新規利用者 2 名
- 退所者 2 名（施設入所：2 名）

⑥ 支援の内容

月に一度の職員ミーティングにて施設長、副施設長等を講師とし、知的障がい者支援の基本から専門的な理論等について学ぶ取組みを行いました。また、各グループの具体的な課題解決を目的に月 2 回、継続的なミーティングを実施しました。利用者の特性に合わせた環境の整備が進みました。一方で経験年数が少ない職員の配置の比率が高いため、今後更なる知識や技術の向上を目指します。

利用者の高齢化、障がいの重度化への対策として、提供する活動内容等の見直しや対応方法の変更を行いました。認知症の症状が確認された利用者については、高齢者介護の支援方法を応用し実践しました。また、重症心身障害の方を中心にスノーズレンやムーブメント等の活動を提供し、利用者の中には能動的な動作が増加した方が見られています。

(2) もやいデイサービス

- ① 男女人数 男性 20 名 女性 12 名
- ② 年齢構成 46 歳～90 歳（平均年齢 69 歳）

③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	6	12	5	7	2	32

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	2	重複障がい（知的、精神）	1
身体障がい	23	重複障がい（身体、精神）	3
精神障がい	3	合計	32

⑤ 入退所の状況

- 新規利用者 2 名
- 退所者 1 名（逝去：1 名）

⑥ 支援の内容

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、外出活動をほぼ中止としました。室内での活動は、従前より取り組んでいる身体や頭を使う体操やゲーム、ご本人の趣向に応じた余暇活動、入浴（希望者）を提供してきました。その中でも本年度は運動や体制に重点を置き、一人ひとりのニーズに応じた運動メニューを用意し取り組みました。利用者の中には目的を理解し積極的に参加する姿が見られています。

年間の平均稼働率は 50.5%であり目標値の 70%を大きく下回った結果でした。引き続き利用者のニーズの把握及び新規にご利用いただくための取組みを行います。

(3) 日中一時支援

- ① 男女人数 男児 10 名 女児 3 名
- ② 年齢構成 9 歳～18 歳（平均年齢 11.5 歳）
- ③ 基本報酬区分（8 歳～18 歳）

	区分 1	区分 2	区分 3	計
人数	0	2	11	13

④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	11	重複障がい（知的、身体）	1
未判定	1	合計	13

⑤ 入退所の状況

新規利用者 0 名
退所者 1 名（高等部卒業）

⑥ 支援の内容

利用する児童の社会適応の観点から一人ひとりの障がい特性に応じた個別スケジュールによる支援、個別学習、遊びを通じた社会的ルールの学習等を実施しました。特に学習では、利用者の「強み」を把握することを目的として多くの自立課題を用意し、実施しました。また、自立した行動を促すため個別スケジュールを用意し、「一人でできた」ということを実感していただく取組みを行いました。自分で選んだり、自分で決定する取組みを通じて児童の成長を確認することができました。

(4) ヘルパー派遣事業（行動援護・移動支援）

① 行動援護

- ・契約者数 男性 6 名 女性 2 名 （合計 8 名）
- ・障害支援区分

	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	6	8

月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
延利用者数	8	10	10	7	5	9	13
延時間数	31.0	58.0	59.0	38.0	29.5	44.5	52.5

	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	10	14	10	9	9	114
延時間数	48.0	63.0	44.0	41.0	40.0	548.5

② 移動支援

- ・契約者数 男性 21 名 女性 25 名 (合計 46 名)
身体介護有：35 名 身体介護無：11 名

月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用者数	42	49	42	39	28	31	51
延時間数	187.0	233.5	209.5	176.0	153.5	154.0	154.0
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延利用者数	47	54	49	25	43	500	
延時間数	252.0	288.0	283.0	137.5	244.5	2,585.5	

③ 支援の内容

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。緊急事態宣言中及びまん延防止等重点措置の期間については、前年度と同様にサービス内容は健康のための散策等を中心とし、昼食を伴うサービスについては屋外で食事（弁当を公園で食べる等）をとる対応としました。まん延防止等重点措置解除後の飲食については、感染対策を十分に講じながら、店舗（感染対策について市町村の認定を受けた）での昼食を伴う支援を再開しました。

行動障害等特別な配慮が必要な利用者に対しては、行動援護等の資格があり支援経験が豊富な法人内他事業所職員等による支援協力の調整を行いました。しかしながら外出支援のニーズはあるもののマスクの着用が困難であることから、当該サービスの申込を断念せざるを得ない方が複数おり、実際には法人内他事業所の支援協力を得ることはありませんでした。次年度においても引き続き他事業所との連携体制を整備し、支援の再開に向けて体制を整備します。

2. 施設管理事業

全稼働日のトイレ清掃を業者委託することで業務の効率化に役立ちました。その他、電気設備、消防設備、エレベータ等の定期的な保守管理を行うことで安全な環境を維持しました。

3. 施設整備事業

法令の消防設備点検において、老朽化による不具合を確認した誘導灯及び熱感知器等を更新しました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
7/8	神奈川県サービス管理責任者更新研修	小林
8/2、4	三浦しらとり園強度行動障害対策事業公開講座	小野、明石
9/9	神奈川県サービス管理責任者基礎研修	石黒
10/12	強度行動障害支援者養成研修フォローアップ講習会	角田
10/21	食べることは生きること～綾瀬ホームの実践報告	藤原・吉田

10/10、17	PECS レベル1 ワークショップ	石黒・谷崎
10/19、22	初任者キャリアパス対応生涯研修課程	吉田
11/11	新任福祉施設等職員合同交流・研修会（後期）	小野
12/13	支援スタッフ部会研修	小野
1/5、31	神奈川県障害者虐待防止権利擁護研修	斗舂
2/5、26	社会福祉士実習指導者講習会	大房・佐々木
2/18	利用者を取り巻く制度	角田

- ・ 所内集合研修として年間計画を策定し、月に1回、正職員と非常勤職員（支援員）が一堂に会し、支援の基礎から応用を学ぶ機会を設定しました。研修の方法はテーマにより講義・グループワーク・演習としました。グループワークや演習は実際の事例を用いて、獲得した知識や技術を早期に支援現場に反映するよう工夫しました。
- ・ 月に1回の集合研修に加え、サポーターズカレッジのウェブ講義の視聴を行う研修会を月に1回実施しました。所属するグループ毎にテーマを設け、該当するコンテンツの視聴を行いました。

5. 防災事業

- ① 訓練 地震訓練（シェイクアウト訓練）を1回実施しました。
津波訓練（屋上避難）を1回実施しました。
- ② 備品 使用期限切れの非常食の入替えを実施しました。

6. 総括

職員が利用者を正しく理解し、理論に基づく支援力の向上を目指し、各種の取組みを実施してきました。毎月の全職員参加のミーティングや各グループ等の隔週のミーティングを職員の人材育成の場として位置づけ取り組んでき結果として、個別支援計画を達成するケースも多く見られ、その効果を確認できました。一方で昨今の人材不足の影響等を受け、年度途中の人事異動等経験年数が少ない職員の比率が高まる等の課題もあり、今後、更なる質の良い職場研修の実施やOJTの実践が急務です。各職員が共通の目標を持ち、モチベーションを高めることでより良い利用者支援へとつながると考え、引き続き人材育成を進めていきます。

建物維持管理については、中期事業計画に基づき令和2年度に大規模修繕が完了したため、本年度は防災設備等を中心に経年劣化した設備の更新を行いました。次年度においても安全な利用者支援や職員の労働環境を維持するため、必要な点検及び整備を行います。

mai!えるしい（就労継続支援B型）

1. 支援事業

- ① 男女人数 男性 14 名 女性 5 名
- ② 年齢構成 22 歳～65 歳（平均年齢 43.8 歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	5	1	4	6	2	0	0	19

- ④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	16	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	2	精神障がい	3
		合 計	19

- ⑤ 入退所の状況

新規利用者 0 名
退所者 1 名（他所利用）

- ⑥ 支援の内容

前年度大きく落ち込んだ自主製品による収益ですが、逗子市役所売店「青い鳥」での販売、大口の注文を受けることができ、147%の増収でした。また、施設外就労の本格稼働、軽作業受注、工房を使用した受託製造・受託加工も増え、全体で昨年比 137%の増収となりました。原材料を必要としない収入が増えたことにより、収入に対する工賃比率は高まりました。

45 歳以上の利用者を対象に高齢に伴う心身機能や行動についてのアセスメントを行いました。比較的機能保持がなされている結果となりましたが、身体的な負担の少ない作業の確保をすることで就労継続することができるよう取り組みます。

利用者が自ら「見てわかる」ことで自ら「動くことができる」ことを目指した掲示や作業指示を行いました。主体的な行動の芽生えも見えていることから次年度の個別支援計画において促進すべき分野といえます。

2. 施設管理事業

平均支給工賃 13,480 円となり、目標としていた平均工賃 10,000 円を大きく超えることができました。

また、施設外就労先や取引先が増えたことにより対外的な交渉や報告連絡も多くなりましたが、職業指導員を中心に対外的業務を遂行しました。

3. 施設整備事業

空調設備を点検し、点検結果を元に設備更新のための計画立案を行いました。令和 3 年 6 月より市役所売店「青い鳥」店舗運営を開始しました。店舗運営に必要な器具を揃え、営業しておりますが、新型コロナウイルス蔓延の状況から、同店におけるコーヒーの販売は見送られています。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
6/24、25	意思伝達の苦手な方のアセスメントと評価	4名
7/5、6	勇気づけが生み出す成長マインド	2名
10/13	障害者の福祉的就労と日中活動サービスの支援の在り方について 国立のぞみの園	2名
11/2	神奈川県知的障害者施設団体連合会 新任職員人権研修	三橋
11/23、26	利用者面談レベルアップ	4名
12/2、6、8	クライシスマネジメント	3名
12/2、6、8	新型コロナウイルス感染予防と障害者支援	4名
12/6	全国生産活動・就労部会職員研修	松島

5. 防災事業

- ① 支援センター風と合同で、火災避難訓練 1 回、津波避難訓練 1 回、風水害を想定した情報収集伝達訓練 1 回を行いました。
- ② 防災備品の点検を行いました。

6. 工賃支払状況（単位：円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
金額	202,440	179,505	203,935	184,825	167,080	195,145	194,200
人数	18	18	18	18	18	18	18
平均	11,246	9,973	11,329	10,268	9,282	10,841	10,788
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
金額	211,720	184,920	168,080	72,040	947,920	2,911,810	
人数	18	18	18	18	18	216	
平均	11,762	10,273	9,337	4,002	27,662	13,480	

※週 2 回、週 3 回、半日利用の利用者を含む。

※2月 は 8 日間の休業。新型コロナウイルス感染で利用率が低下したことによる。

7. 総括

新型コロナウイルス陽性者が利用者、職員ともに複数あり、年間延べ 10 日間の休業がありました。その為、計画された利用者数を大きく下回ることとなりました。新規利用相談もありましたが緊急事態宣言や当所の休業もあり、次年度からの受入れとなりました。

就労支接收支については自主製品販売による収入が増加したことに加え、受託製造、受託加工も取引先が増えたことにより機会も増加しました。中でも施設外就労が全体の就労支接收支に好影響を与えました。企業で働く際の就業準備性を利用者・職員も学ぶことができおり、利用者の就業能力の向上にも寄与しました。昨年度この施設外就労より一般就労した 1 名の利用者は就業が継続されています。平均工賃は昨年の 156% となり、令和元年度の水準も超えました。

グループホーム利用者が全体の 1/3 となり、利用者の心身の状況をご家庭、グループホーム、医療機関、相談支援事業所とも連携する必要性が高まっています。平均年齢も 42 歳を超えたことから以下の 3 点の支援ニーズ（①就労継続、ステップアップを目標とした訓練的支援②人的交流、社会参加を目的とした社会的活動・生産活動③機能低下防止のための活動）に対応すべく支援の内容を推進してまいります。

えいむ（生活介護）

1. 支援事業

- ① 男女人数 男性 44 名 女性 4 名
- ② 年齢構成 19 歳～51 歳（平均年齢 35.2 歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	3	18	17	10	48

- ④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	46	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	1	合計	48

- ⑤ 入退所の状況

新規利用者 1 名
退所者 0 名

- ⑥ 支援の内容

PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を用いて、個々人のコミュニケーション支援を進めてまいりました。その他、利用者個々の重点支援領域に基づき、適宜アセスメントを行い、個々のレベルに応じた課題に取り組みました。

利用者の障がい特性や効果的な支援を展開するため、適宜、レイアウトの変更並びに支援用備品の入替えを行いました。

活動提供については銅線作業以外に資源回収、軽易な受注作業及び苗木栽培等の下請作業を中心に提供しました。高齢期を迎えるにあたり身体機能維持を目的としたウォーキング等の身体を動かす活動も適宜、追加し、利用者の方の活動の幅の拡大に繋がりました。

今後も各利用者のニーズに応じた活動提供について検討を行います。

2. 施設管理事業

5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組み、施設内外の不用品の廃棄等、環境整備を行いました。

3. 施設整備事業

施設の老朽化及び備品の経年劣化に伴い、適宜、修繕を行うとともに、エレベータ部品交換工事、3 階クロス貼り替え工事、屋上防水塗装工事、厨房機器入替え（スチームコンベクション、IHジャー炊飯器）及び厨房排気系統清掃を実施しました。

その他、効果的な支援を行う上で、適宜、各利用者の障がい特性に応じた支援環境の整備に着手しました。

4. 研修事業（派遣研修以外に映像配信による所内研修を計 12 回実施しました。）

実施日	内容	参加者
10/12	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）フォローアップ講習	浅井
10/13、11/1、12/16、1	強度行動障害対策研修実践力養成コース	鈴木
10/19、22	初任者キャリアパス対応生涯研修課程	池谷
10/21	意思決定ガイドライン研修	山崎
10/24	As-Net かながわ令和 3 年度第 1 回実践報告会	山崎、浅井
9/14、15、21、22	PECS レベル 1 ワークショップ	鈴木、高野
12/7、8、14、15	PECS レベル 1 ワークショップ	浅井、池谷
2/20	As-Net かながわ令和 3 年度第 2 回実践報告会	山崎、浅井
2/25	社会福祉基礎研修	池谷
3/4	新任行動力強化研修	池谷

5. 防災事業

- ① 訓練 火災を想定した総合訓練(消火・通報・避難)を年 2 回実施しました。緊急連絡網の訓練についても年 2 回実施しました。
- ②備品 非常食を含めた防災備品の入替えを行いました。

6. 総括

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で 4 月期、5 月期と利用者の大半がサービス利用を自粛したことと 7 月期には新型コロナウイルス陽性者が発生し臨時休業を設けた関係で、目標の稼働率の達成には至りませんでした。

支援事業では、作業活動以外に利用者の高齢化や重度化に伴う身体機能維持を目的としたウォーキング等の運動プログラムを提供しました。今後も利用者の高齢化や重度化に伴う身体機能維持を目的とした活動の他、学習や余暇の活動提供について検討を進めてまいります。また、若年層の利用者の方へは、引き続き作業を中心とした活動を提供し、個々人のライフステージに合った活動提供を行ってまいります。

研修事業では新型コロナウイルス感染症の影響で派遣研修が限られる中、基本的な利用者支援に関する知識・技術に関する所内研修と事例検討を実施しました。

次年度以降も派遣研修が限られることが想定される中で所内研修の更なる充実化を図るべく、研修計画を策定し、計画的に学びの機会を設けながら、日々の支援の根拠を明確にしながら各支援員の質の向上を目指します。

葉山はばたき（生活介護）

1. 支援事業

- ① 男女人数 男性 11 名 女性 12 名
- ② 年齢構成 20 歳～71 歳（平均年齢 42.4 歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	3	4	9	5	23

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	14	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	9	合計	23

⑤入退所の状況

新規利用者 0 名
退所者 0 名

⑥ 支援の内容

生涯発達支援の考え方にに基づき、利用者個々に重点支援領域を設定し個別支援計画を策定しました。個別支援計画プロセスについて再考し、法令に基づくプロセスについて施設長並びにサービス管理責任者を中心に再整備しました。

活動提供については、作業活動以外に利用者の障がい特性並びに年齢層や利用者個々のニーズに応自他個別の自立課題や身体機能を維持するためのプログラム、余暇活動の充実化を図りました。

支援環境については、利用者の方の障がい特性に応じた環境整備を図り、効果的な支援が展開できるようレイアウト変更及び備品の入替え等を実施しました。

2. 施設管理事業

- ① 「葉山町立の障害者支援施設葉山はばたきの管理に関する協定書」に基づき、葉山町への定期的な業務報告並びに施設管理を行いました。
- ② 法令に基づく消防用設備点検、館内床清掃ならびにガラス清掃、害虫駆除防除については専門業者に委託し実施しました。

3. 施設整備事業

事業所の移転に向けて町内に土地・建物を取得後、令和 4 年 1 月に自主的な地域住民説明会を移転先にて開催し、改修工事ならびに設備の更新等に着手しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
5/7	普通救命講習 I	小山
6/4	普通救命講習 I	藤田
6/8	地域リハビリテーション支援センター研修	齋藤
8/2、4	強度行動障害対策事業公開講座	藤田
8/6	神奈川県社会福祉協議会「コミュニケーション研修」	小山
10/12	強度行動障害対策事業公開講座	藤田

10/13、11/1、12/16、2/1	強度行動障害対策研修実践力養成コース	古賀
10/21	支援スタッフ部会 10月例会	齋藤
11/3	プラダー・ウィリー症候群(PWS)支援者対象後援会	古賀
11/11	神奈川県意思決定支援ガイドライン研修	鹿遊
11/22、12/13、1/17	神奈川県相談支援従事者現任研修	鹿遊
12/7、8、14、15	PECS レベル1 ワークショップ	齋藤
12/13	支援スタッフ部会 12月例会	藤田
1/24、25	甲種防火管理者講習会	鹿遊
2/4、3	神奈川県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	原田
2/18	支援スタッフ部会 2月例会	原田

※ 「神奈川県障害福祉職員実践報告会」については新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度も中止となりました。

【所内研修】(映像配信研修)

実施日	内容	参加者
4月期	障がい者福祉とは?	10名
	障がい者支援の理念とは	10名
	大規模災害と福祉施設	10名
5月期	知的障がい者とは?	10名
	高齢知的障者の支援	10名
	理念の実践と人材育成	3名
	新人の育成と定着を考える	3名
6月期	個別支援計画とケース記録	9名
	個別支援計画をより深めるために	9名
7月期	精神障がいとは?	7名
	高齢化に伴う変化と身体介護	7名
	OJTの効果的な実践法	3名
	福祉業界におけるキャリアパスのあり方	3名
8月期	障がい者との関係構築	7名
	プラスの変化を作り出す技法	7名
	会議の基本と効果的な進め方	3名
	ファシリテーションの実践	3名
9月期	意思伝達が苦手な障がい者のアセスメントと評価	10名
	社会生活力(主体性と自立性を高める支援)	10名
10月期	障がい者虐待防止について	10名
	支援者と支援組織のストレスマネジメント	10名
11月期	自閉症	10名
	てんかん	10名
	統合失調症	2名
	ハラスメントの理解と防止に向けて	3名
	福祉施設と地域活動	3名
12月期	クライシスマネジメント	10名
	リスクマネジメント	10名
1月期	知的障がい者との面談	9名
	利用者面談レベルアップ	9名
3月期	精神障がい者への支援	8名
	利用者にやさしい施設	8名

5. 防災事業

- ① 訓練 火災を想定した総合訓練(2回)及び津波を想定した避難訓練(1回)、土砂災害を想定した避難訓練(1回)を実施した他、職員の緊急時連絡訓練を3回実施しました。
- ② 備品 災害用非常食の入替えを行いました。

6. 総括

支援事業では昨年度同様、生涯発達支援の考え方を基本とし、各利用者の方の障がい特性や年齢に応じた個別支援計画を策定した上で個別に活動提供を行いました。障がい特性や年齢層が多岐に亘るため今後、多様化する個々のニーズに応じた支援・活動環境を整備すると共に若年層の利用者の方への作業プログラムの拡充や青年期、高齢期の利用者の方への身体機能及び認知機能の維持を目的とした学習・余暇活動プログラムの充実化を図ります。

個別支援計画プロセスについては施設長並びにサービス管理責任者を中心に支援進捗上の課題等を検証し、再整備を行いました。利用者の方のニーズに基づく個別支援計画策定等、効果的な支援が展開できるよう支援者同士がチームとして支援を行えるよう、利用者の方の状態像の共有ならびに具体的な支援方法の統一化を図ります。

施設管理事業では、法令に基づく消防用設備点検の他、利用者の方が快適に過ごすことができるよう各専門業者に委託し、館内清掃等を行いました。

研修事業では、新型コロナウイルス感染症の影響で派遣研修が限られる中、各職員の支援における基本的な知識・技術を習得すべく、可能な限り派遣研修への参加を行う他、研修計画を策定し事業所内研修を実施しました。次年度以降も各職員が学びの機会を確保しながら質の高い利用者支援を実践できるよう人材育成を充実します。

事業運営全般として新型コロナウイルス感染症が3月に利用者5名、職員2名の感染が確認されました。より一層の感染予防対策を講じると共に、次年度以降も継続して障がい特性に応じた支援環境の整備を含め、多様化する本人及び家族ニーズに対応すべく関係機関と連携しながら職員個々の支援の質の向上を図るべく事業を運営します。

支援センター風：逗子市委託相談支援及び葉山町委託相談支援事業（逗子市・葉山町委託）

1. 支援事業

① 相談支援の状況

逗子市：46名 873件 葉山町：10名 481件

※ 市町が求める集計方法が変更となりましたので件数による昨年との比較はありません。

両地域合わせて相談員員数10名 常勤換算6.4人 昨年比+1人

② 活動の状況

訪問、同行、電話相談、個別支援会議、関係機関とのサービス調整及びサービス等利用計画に係る事務を行いました。

2. 総括

下欄の指定特定相談支援事業、指定障害児相談事業と一体的に運営しています。

相談件数については委託相談のみの集計となりました。サービス利用希望があるものの、利用に至らない方への支援、高齢の母親との世帯支援、一人暮らしの方のための生活全般的な支援、就労されている方の生活面での支援など多岐に及びました。

支援センター風：指定計画相談支援及び指定障害児相談支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

① 計画作成件数

逗子市民：444件 葉山町民：358件 横須賀市民：3件 鎌倉市民：3件 計808件

昨年比：+129件

計画相談利用人数：292名（+25名）

障害児相談利用人数：113名（+16名）

② 活動の状況

利用者1名につき、アセスメント、サービス等利用計画案の作成、個別支援会議の開催、サービス等利用計画作成及びモニタリング作成がサイクルで行われており、これらに付随して面接、訪問、連絡調整及び申請等援助を実施しました。前年度は対面による面談、カンファレンスの機会が減少しましたが今年度については、利用者、場所、状況にもよりますが感染予防対策を行った上で実施することができたケースが増えました。兄弟ともに支援が必要なケース、親も子も支援が必要なケース、介護保険との併用ケースなど障害福祉サービスだけでは解決できないニーズがあるケースが増えています。

2. 総括

計画作成件数（モニタリング含む）は前年度比129件増となりました。利用人数が増えたこととモニタリング機会の逸失防止、感染予防対策を実施した上での対面的支援の実施が増加の要因です。障害福祉、児童福祉サービスだけでは支援ニーズに対応できないケースについては介護保険サービスや生活困窮者自立支援制度、成年後見人、保健医療機関、教育機関、企業、就労支援機関、行政機関等様々な分野の機関との連携が年々増えています。家庭丸ごと支援対象である複雑化する支援ニーズに対応すべく、相談員一人ひとりの資質、スキルの向上がさらに求められています。年間4回の所内事例検討会

に加え、市町で行われる事例検討会への出席、県、圏域単位で行われる研修会に積極的に出席するなどの機会を設けてまいります。

支援センター風：逗子市基幹相談支援センター事業（逗子市委託）

1. 支援事業

① 総合・専門的な相談支援

市内の支援機関からの要請によって困難事例へのスーパーバイズや多機関連携会議、制度活用の相談、地域資源についての問い合わせ相談に応じました。

② 地域の相談支援体制強化の取組み

市内の相談支援機関との連絡会の開催（12回うち書面会議1回、オンライン2回）、事例検討会（4回）を行いました。

③ その他、高齢福祉と障害福祉お互いを分かり合う事例検討会、医療的ケアを要する方の地域生活事例を用いた研修、生活困窮者自立支援と多職種連携、地域移行定着に係る事例を用いた研修、意思決定支援に関する研修（オンラインによる）を開催しました。

2. 総括

前年度に開催し、好評を得た研修や継続的な取組みが求められる事例検討会等においては今年度も同様に実施しました。研修会についてはいずれも全県的な課題に対応したテーマとなりました。オンライン会議が普及したことから書面会議は1回となり、前年度より減少しました。しかし、事例検討や関係構築を目的とした集会は対面で行うことの重要性をさらに感じることもありました。

今後は医療的ケアを要する方の支援、精神障害にも対応した地域包括支援の協議の場の構築について、基幹相談支援センターに求められる事柄が増えてくることが考えられます。

支援センター風：葉山町基幹相談支援センター事業（葉山町委託）

1. 支援事業

① 総合・専門的な相談支援の実施

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業所訪問は行えませんでした。町内の支援機関からの相談に応じました。介護保険との併用、他市からの移住、高齢化した障害ある方のサービス、障害福祉サービス制度運用についての相談が主な相談内容でした。

② 地域の相談支援体制強化の取組み

逗子市基幹相談支援センターと共催で6回の研修会を開催しました。うち1回についてはオンライン形式に変更し開催しました。対面式で行った研修においても人数を制限し、体調申告や飛沫防止パネルの設置、消毒、換気などの感染防止対策をしました。

研修内容は高齢・障害お互いを知り合う検討会、医療的ケアを要する方の地域生活支援事例の報告会、生活困窮者自立支援制度を利用した事例を用いた研修、地域移行事例検討会、権利擁護と虐待防止、意思決定支援についてでした。

③ 葉山町自立支援協議会の企画運営

全体会議	運営会議	相談支援ネットワーク委員会	地域生活ネットワーク委員会	情報見える化チーム
7/8、3/29	6/18、3/15	毎月(内1回は書面)	7/27、10/19、1/18	6/29(活動終了)

2. 総括

葉山町から委託され実施した2年目の事業です。相談支援ネットワーク委員会内において地域の困難ケースをグループスーパービジョンの手法を用いた共に検討する場づくりを新たに構築しました。

前年度に引き続き関係機関の訪問を行い、ニーズ把握を行う“アウトリーチ”に取り組めていないことなどから、依然として本事業利用方法の周知、普及が足りておらず、事例を通じた連携にはまだ課題があります。社会情勢を鑑みながらアウトリーチの機会を作ってまいります。また、情報見える化チームで検討された内容を具現化する「情報見える化サイト」の創設に臨みます。

支援センター風：逗子市地域活動支援センター（逗子市委託）

1. 支援事業

逗子市在住の各種障害者手帳保持者を対象として学習、作業活動等を提供する事業です。また、制度のはざま事業として障害者手帳を所持していない方の受入れも行います。

- ① 年齢構成 22歳～63歳
- ② 利用者の状況

	人数		人数
知的障がい	13	精神障がい	4
発達障害	1	高次脳機能障害	1
		合計	19

③ 入退所の状況

新規利用者 2名

退所者 2名

2. 総括

主査1名、指導員2名、相談員兼務4名で常勤換算2名の配置で実施しました。就労されている方の就労以外の社会活動の場、社会的接点が長らく無かった方の居場所、重複障害（知的・精神）による適合サービスが無い方の日中活動の場など地域の機関での受入れが困難な方に利用ニーズがある傾向は継続しています。1日の利用平均人数は4.0名と昨年比で0.2ポイント増となっています。

複雑な支援ニーズをお持ちの方の利用に特化した支援の場になりつつあることから、利用者の特性、置かれた環境を適切に読み解き、支援の根拠とするためのアセスメント方法を見直し、支援の統一に努めました。一部の利用者に効果が見られていることから次年度はその対象拡大を目指します。

支援センター風：逗子市自立支援会議運営事業（逗子市委託）

1. 支援事業

全体会議	運営会議	専門会議（権利擁護）	専門会議（就労支援）	定例会議
8/6、2/22	6/30、1/25	1/19、9/10	12/20、7/6	毎月

※ 定例会議は書面会議1回、オンライン会議2回を含みます。

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、できる限り対面会議の方法をとりました。

権利擁護部門においては昨年取り組んだ「日常の支援に係るアンケート」の集約を元に「意思決定を尊重した適切な支援のための事例集」のとりまとめを行いました。就労支援部会では障がいのある方を雇用する地域の優良企業の紹介などこれまでにない取組みを行いました。基幹相談支援センター連絡会と連携し抽出された課題に対応すべく、地域の関係機関との連携機会を継続的に持てるように臨みます。

支援センター風：横須賀・三浦障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業（神奈川県委託）

1. 支援事業

業務内容としては①地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーション②支援困難ケース等はかながわA（神奈川県発達障害支援センター）との連携をコーディネート③圏域の発達障害に係る課題の抽出④検討機会の構築（地域連絡会の開催）です。

機関コンサルテーション	地域巡回	関係諸会議への参加機会
91件(前年比-54件)	143件(前年比-54件)	49回(前年比+45回)

※かながわA連携業務は関係諸会議への参加機会に集約されています。

2. 総括

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、昨年実施した書面による質疑、メールによる情報提供などの方法から、実際に地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーションに重点を置いたため件数は減少しました。サービス利用中の暴力、暴言、行動の停止、社会的逸脱行為などの行動障害に関する支援依頼の増加傾向はこの数年変わりません。一つの事業所に複数回の支援を求められるケースが増えている主な要因です。地域の関係諸会議は感染予防対策を講じた上で開催される場合が増えたことにより、例年並みの回数となりました。令和4年度より、④の検討機会の構築（地域連絡会の開催）は任意実施となります。

支援センター風：介護保険・居宅介護支援事業（返子市指定）

1. 支援事業

自宅において日常生活を営むために必要なサービスを利用できるよう居宅サービス計画を公正中立の立場で作成する介護保険法に基づいた事業です。

① 給付管理実績（ケアマネジャーは給付管理実績に基づき介護報酬を得ます。）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
管理数	37 (+10)	36 (+9)	37 (+11)	39 (+10)	40 (+11)	40 (+10)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40 (+11)	38 (+5)	37 (+3)	37 (+2)	38 (+1)	36 (+3)	455 (+86)

② その他

利用者の平均年齢は73.4歳（+0.1歳）、平均介護度は3.1（+0.3）でした。

障害福祉サービスを併用している方は21名（+7名）でした。

2. 総括

給付管理件数は昨年比86件増加しました。昨年度の11月あたりから給付管理数が増加傾向にあったため、本年度の上半期はひと月で二桁の給付件数増が続きました。入院入所等で利用終了者3名（-5名）に対し、新規利用者が8名（+6名）であり、終了者よりも利用継続者が通年で上回っています。21名（+6名）の方が障害福祉サービスを併用しており、さらに65歳以下（2号被保険者）で認知症をはじめとする特定疾病の発症による利用者も12名（+5名）を数え、介護保険サービスと障害者福祉サービス双方の連携したケアマネジメントが当事業所の特徴となっています。

昨年に引き続き、地域包括支援センターにおいて対応している困難事例や他機関多職種連携を要す事例、家族全体に複合的課題があるケースを複数支援し、地域ニーズに応えるよう努めてまいりました。

新規利用ケース8名の内、5名が当法人通所施設の利用者及び利用者の親のケアマネジメントであり、利用者個々の支援あるいは世帯への支援に介護保険サービスが不可欠になっていることから潜在的な利用者を多く含む事業と考えられます。事業継続のための人材確保が引き続き大きな課題です。

支援センター風：各事業共通

1. 施設管理事業

各事業における事務の効率化のため、相談支援及び介護保険においてクラウドサービスを引き続き利用しました。

2. 施設整備事業

- ・ 人員増に伴い、2階事務室の拡張を行いました。
- ・ 地域活動支援室のエアコンを更新しました。
- ・ 管内全体のエアコンの点検を実施しました。
- ・ 2階事務室の照明操作パネルの修理を行いました。

3. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
7/1～11/12	神奈川県相談支援従事者初任者研修及びプレ研修 計9日間	川名
7/2	強度行動障害対策研修公開講座	川名
7/19	逗子市こども発達支援センターくろーばーオープンデイ	2名
7/16	苦情解決研修会	染谷
9/1	医療的ケア児等支援者基礎養成研修	4名
10/29	居宅介護支援事業所集団講習会	染谷
10/29	かながわA ペアレントトレーニングで笑顔に	興野
11/3	プラダー・ウィリー症候群支援者対象後援会	萩原
12/6	かながわA メディアを通じた発達障害の理解	藤代
12/21	逗子市・葉山町ケアマネジメント研修会	染谷
1/19	逗葉在宅医療介護連携室多職種連携研修会	2名
1/20	逗子市介護サービス事業所管理者向け研修会	染谷
2/5、28	社会福祉士実習指導者講習	吉原
2/7	神奈川県相談支援従事者専門コース研修意思決定支援	宇賀神
2/8	重度障害者でも社会参加できる	宇賀神
2/18	発達障害地域支援推進事業実地研修	藤代
2/24	逗子市高齢者虐待防止研修	染谷
2/28	第2回国立のぞみの園セミナー～高齢期の支援が変わる時～	2名
3/10	逗子市相談支援包括化推進会議 研修会	佐々木

【所内研修】

実施日	内容	参加者
6/15～17	会議の基本と効果的な進め方	7名
6/22～29	意思伝達の苦手な障がい者のアセスメントと評価	9名
6/2～7/2	障がいのある人の働くを考える	7名
7/5～12	勇気づけが生み出す組織の成功マインド	10名
11/2～23	目指せ利用者面談レベルアップ	4名
12/1	クライシスマネジメント	10名
12/6～9	新型コロナウイルスと障害者支援のこれから	14名

※ 所内研修 事例検討会 年4回

4. 防災事業

① 訓練

- ・mai!えるしいと合同で、火災避難訓練1回、津波避難訓練1回、風水害を想定した情報収集・伝達訓練1回を行いました。
- ・防災備品の点検を行い、防災用品リストの更新及び非常食の追加購入を行いました。

グループホームジャストサイズ（共同生活援助）

1. 支援事業

- ① 男女人数 男性 27 名 女性 16 名
- ② 年齢構成 25 歳～64 歳（平均年齢 46.5 歳）
- ③ 障害支援区分（）内は前年比

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	1	5 (-1)	9 (-2)	12 (+3)	16 (+1)	43

④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	31	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	11	重複障がい（知的、身体、精神）	1
		合計	43

⑤ 入退所の状況

新規利用者 0 名
退所者 1 名

⑥ 支援の内容

- ・令和 2 年度に引き続き、虐待防止改善計画を踏襲する形で取組みを行いました。新型コロナウイルス対策としては換気や手指・物理的環境への消毒などに取り組みましたが、令和 4 年 1 月末以降、利用者 11 名、職員 8 名の陽性者が断続的に出てしまい、収束までにか月ほどを要する事態となっていました。
- ・「生活支援の使命」については個別支援計画にも考え方を反映させることで職員の支援に対する考え方の整理に繋がりました。より細かな部分の確認は必要ですが一つの方向性を示す結果となっています。
- ・令和 3 年 4 月以降、宿泊勤務者 2 名、日勤者 3 名（うち 1 名は早番兼務）、早番 2 名（うち 1 名は日勤兼務）の採用を行いました。虐待防止の一環である採用時の実習については通所施設での一定期間の研修を経て、ジャストサイズでの実習勤務を行い、その後通常の勤務に入る流れを原則としました。令和 3 年度末には令和 3 年 4 月と比較して職員数でプラス 3 人、常勤換算数でプラス 5.3 人となりました。365 日の受入ができていない住居もあり、職員の確保は引き続きの課題となります。
- ・年間を通して食事の工夫などで季節や慣習を体感できるような取組みについては住居単位で進捗に差が生じることとなり、次年度に向けては全住居での取組みにすることが課題です。平日の散歩や週末の近隣店舗の利用などについては頻度こそ少ないものの徐々に取り組むことができおり、今後も継続していきます。
- ・住居の入替については昨年度同様、必要性を感じながらも検討を進めることができませんでした。利用者の高齢化が進む中で職員の追加配置や介護保険との併用、医療連携の必要性を感じる一年となりましたが、これらの今後必要とされる体制を検討する中で改めて住居の入替についても考えをまとめていきます。

2. 施設管理事業

- ・支援記録等の記録全般のデータ化についてはハード面の整備は行ったものの、記録を取る為のデ

一タの精査が間に合わず、年度内の導入には至りませんでした。

- ・新型コロナウイルスの影響もあり、規模は住居ごと、頻度は年1回とし利用者ご家族との懇談の機会を設けました。iPadの導入により日頃の様子や過ごし方を画像や動画でお伝えすることができ、利用者の皆さんの離れて暮らす姿を見たもらうことができました。次年度についても新型コロナウイルスの状況次第の開催になりますが、週末の利用希望などについてご意見を頂く機会を設けたいと思います。

3. 施設整備事業

- ・法令に基づく年2回の消防設備点検を実施しました。
- ・専門の業者による清掃はハウスクリーニングとエアコンクリーニングを実施しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
11/16、17	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	新井

【所内研修】

実施日	内容	参加者
5/13	怒りやストレスのコントロール術	正職員
7/8	合理的配慮について考える	正職員
10/14	中間事業報告会リハーサル	正職員
11/11	支援記録等に関するデータ化について	正職員
12/9	映画『道草』を見て支援を考える	正職員
1/3	メンタルヘルス研修	正職員

【所内研修（映像配信研修）】

実施日	内容	参加者
6月	利用者一人ひとりの理解ってどうすれば良いのだろう？	正職員、有期
9月	利用者とは接する時のマナーってどうすればいいの？	正職員、有期
11月	知的障がいのある方を中心に利用者とのコミュニケーションを学ぶ	正職員、有期

5. 防災事業

- ① 訓練 令和3年9月から令和4年3月までの期間中に随時、避難訓練を実施しました。
- ② 備品 非常用バッテリーを購入しました。

6. 総括

前年度の事業報告でも振り返ったように虐待防止の取組みは通常の事業運営においても有効なことが多く、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

その中で令和3年度は個別支援計画の大幅な見直しを行い、利用者一人一人の状態に合わせた取組みや環境設定を進めてきました。生活面におけるスケジュール提示は管理的な側面を極力排除し、利用者自身が生活の流れを組み立てることでご本人が自発的に見通しをもって過ごすことができること、

『今日、泊まる職員は誰なのか』という勤務する職員の情報は利用者の皆さんにとって非常に関心が高いことなどが見えてきました。またこれらの取組みによる利用者の変化は、職員の関わり方にもプラスの変化を生み、良いサイクルとなっているため、次年度以降も個別支援計画を軸に取組みを進めていきます。

地域生活の在り方については現在も手探りではありますが、帰着後の散歩や買い物などを継続していくと共に防災の観点からも地域との繋がりを具体的に考えていきたいです。

最後に、今後も増えていくであろう高齢化に対応するための課題としては運動の機会の確保による健康維持、興味関心を持続・保持するための余暇的な過ごし方の拡大などが挙げられます。併せて医療連携について次年度以降の喫緊の課題となるため、早期に検討を進めていきます。

グループホームジャストサイズ（短期入所）

1. 支援事業

ジャストサイズ小坪

- ① 男女人数 男性 13 名（前年比+1） 女性 6 名（前年比-1）
- ② 年齢構成 18 歳～59 歳
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	3	5	3	6	19

ジャストサイズ堀内

- ① 男女人数 男性 7 名（前年比+1） 女性 9 名（前年比-1）
- ② 年齢構成 21 歳～54 歳
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	4	3	3	3	3	16

2. 総括

前年度に続き新型コロナウイルスの影響を大きく受けた事業となりました。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の対象期間中やコロナ陽性者が頻発した時期は利用自粛の要請をさせていただいたため、8月、9月、2月に至っては稼働率が 20%台となりました。ご利用者・ご家族の皆様には令和 2 年度に続き大変なご不便をおかけした一年となりました。同じく新型コロナウイルスへの懸念もある中で、数年単位でご利用していただけていない方もおり、短期入所事業としての機能を十分に発揮できていない部分も感じた一年となりました。

短期入所本来の機能として緊急性の高いニーズへの対応がありますが、令和 3 年度においてはご家族の入院や体調不良を理由とする受け入れは 1 件のみでした。ご本人、ご家族の高齢化による利用ニーズは引き続き増加の傾向にあります。他方で若い世代のご利用も増えてきています。

令和 4 年度についても引き続き同様の運営方法となりますが、グループホーム併設型の特徴を活かし、本体ホームと併せて人員を加配するなどして幅広くニーズに応えられる体制を検討していきたいと思っております。

委員会・研究会

1. 委員会

* 支援向上委・員会（委員長：植草良太）

昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響もあり、委員会開催の招集が困難な月が多くなりました。今年度、支援向上委員会として、アセスメントシートの見直し、改定作業を中心に取り組みました。新しく入職する職員も増え、平成17年にアセスメントシートを作成したプロセスや参考文献をメンバー内で再確認し、領域ごとのグループに分かれ、現在の項目にあった内容に修正、検討作業を行いました。次年度についても、アセスメントシートの改訂作業を中心に取り組みを継続します。

また、各事業所の支援等に関する課題を明らかにし、課題設定等に役立たせることを目的として正職員を対象に「利用者に応じた個別支援プログラムに関する調査」及び「緊急時の対応に関する調査」を実施します。調査結果について今後法人内で公表予定です。

* 安全衛生委員会（委員長：鹿遊英樹）

昨年度までは2つの部会に分け会議を開催してきましたが、委員数が少なくなったため月1回全体で委員会を開催いたしました。また、感染症予防のためオンライン（ZOOM）で委員会を実施いたしました。

各事業所の感染症対策グッズの確認、新型コロナウイルス・インフルエンザ予防啓発、感染症対策研修、メンタルヘルスケア研修、5S活動として各事業所の視察訪問、改善指示などの取り組みを行いました。感染症研修、メンタルヘルス研修はいずれもオンラインにて実施いたしました。

次年度においても今年度と同様の取り組みを継続し、法人職員全体の安全衛生の向上を目指します。

* 虐待防止委員会（委員長：萩原崇至）

新型コロナウイルス感染症の影響で全体での会議は1回のみで開催となりました。各部会については定期的に開催し、障がいのある方の虐待防止に向けた「人権チェックリスト」の内容の検討等を行いました。

全体研修については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、集合研修は中止としました。

令和4年度は令和3年度報酬改定に伴う運営基準の改正に対応するため、虐待防止委員会の所掌事項、委員構成の見直し等を行い、虐待防止のための計画づくりや職員への研修実施、虐待防止のチェックとモニタリング等に取り組み、併せて身体拘束等の適正化のための対策についても検討を進めてまいります。

* コンプライアンス委員会（委員長：橘 昌邦）

対面での委員会活動に制限がありましたが以下の3つの取り組みを行いました。「職員行動強化月間」の取り組みは、引き続き各事業所単位で実施しました。「職員研修」は集合研修の開催を回避し、DVD「介護職員マナー&コンプライアンス向上講座」を使用し事業所毎に実施しました。「請求確認シート」の改善提案をすべく、引き続き委員内での請求疑似体験および強度行動障害加算請求チェックシート案の作成を行いました。次年度においては、職員強化月間の取り組み行程の再確認、事業所ごとの研修開催、請求確認の改善提案を行い施設長会議とも連携しながら普及を目指します。

* 広報委員会（委員長：坂本泰一）

法人ホームページ・法人案内の更新、「湘南の風会報」の発行を行いました。

特に「湘南の風会報」の発行にあたっては、会報を読む方に利用者の皆様の施設での様子や施設の新たな取組み等が伝わるよう努めました。今後も法人の情報を利用者の皆様、地域の皆様に提供して参ります。

* 感謝デイ実行委員会（委員長：荒井隼人）

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため開催を中止いたしました。開催時に向けて、マニュアルの作成、備品の確認、整理を行いました。

* 研修委員会（委員長：菊池一美）

令和2年度より再開した委員会です。法人内で企画されている研修、外部派遣されている研修などの全体像を調査し整理しました。法定研修や更新を要する研修、キャリアパス対応研修の受講状況を整理し、法人内で活用できるよう提案しました。次年度は法人本部総務課が所掌している研修の企画運営、各位委員会が企画運営する研修開催時期の調整、事業報告会等の役割について総務課と調整し取組みます。

2. 研究会

* 自閉症研究会（アドバイザー：小林 倫）

法人内における自閉症者支援の在り方の研究と普及を目的として、各事業所から計13名の職員が参加しました。隔月での開催を目指しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は2回の開催となりました。第1回目は自閉症支援の歴史的背景や特性理解に関する講義や意見交換、第2回目は自閉症の個々の特性を正しく理解するためのアセスメントの演習に取り組みました。次年度も、引き続き「特性理解」や「アセスメント・構造化」等をテーマとした学び、及び先進的な取組を行っている他法人の見学（Web見学等）等の企画を実施する予定です。

* 高齢化支援研究会（アドバイザー：萩原崇至）

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で研究会の開催はできませんでした。

法人全体で利用者の高齢化、重度化が進む中、研究会を通じて支援上の課題を整理し高齢知的障がい者の支援の在り方を検証し、具体的な実践方法について研究会メンバーと協議・検討を次年度以降、進めてまいります。

* 生活支援研究会（アドバイザー：新井宏二）

令和3年度の研究会は年間の開催予定を立てて臨みましたが、他の委員会や研究会と同様に新型コロナウイルスの影響により開催は2回に留まりました。その中で法人内各事業所の連携に関するアンケートを実施しましたが年度内に集計を終えることができませんでした。また法人各事業を利用されている在宅の方の状況に関して状況を整理する取組みも同時進行で取り組みましたがこちらも整理する項目の検討に留まりました。次年度も引き続き前述の二点について取組みを進めます。